

第8回 能美市タウンミーティング

平成29年7月26日（水）19:30～21:45

虚空蔵会館

【司会】

ただいまから和気小学校下のタウンミーティングを始めさせていただきます。

まず初めに、ご参加の皆様を代表しまして、和光台の会長様よりご挨拶をいただきたいと思ひます。

【和光台会長】

日ごろ地域の活動にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

本日は、井出市長をお迎えしましてのタウンミーティングです。「10年後の未来」という形で、国造地区の繁栄を、活動をさらなるよいものにするために、皆様の活発な意見をいただき、短い時間ではありますが、よろしくお願ひいたします。

【司会】

次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

日中のお疲れのところ、きょうもこんなに大勢の皆様にお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。

実は、能美市の人口が昨年の10月に5万人を超えたということでセレモニーをしたのですが、その後ずっと5万人を切っておりまして、7月1日になっても、実は4万9,900人台でした。7月6日は大安で、出生届が生まれてちょっとふえて、7月7日は七夕で、婚姻届がたくさん生まれて、今現在、5万人を超えております。

我々もいろんな政策をやってはいるのですが、毎日が七夕だったら人口がどんどんふえるのではないかと思ひていまして、七夕というのは何とありがたいなと思ひているところではあります。

きょう、タウンミーティングを始めさせていただく前に、私のほうから少しだけ、お話をしたいと思ひますので、しばらくおつき合ひをいただければなと思ひます。

このタウンミーティングというのは、どういう位置づけかといいますと、私の政治の信条である「現地現場主義」「市民ファースト」をやっていくためのまさに礎であります。

皆様からいろんなことをお伺いして、それをこの「現地現場主義」「市民ファースト」というものに活かしていこうということでタウンミーティングを開催させていただいています。

能美市の最大の課題は、これは日本全国そうなのですが、人口減少問題です。今のところ、ある統計では、2040年には4万7,319人まで減ってしまうという予測が出されています。それを何とか5万人をキープできればいいのですが、やはり少子・高齢化なので、人口減少に陥ってしまいます。何とか2040年には4万8,800人を目指して、いろんな政策をとっていきいたいということで日々いろんなことに取り組んでいるところです。

人口減少だけではなく高齢化もあり、現在の高齢化比率、65歳以上の方々が全人口に占める割合は、現在は約25%ですが、これが2040年には32%に上がってしまうということです。能美市もこの少子・高齢化、人口減少対策に立ち向かっていかななくてはいけないというのが最大の課題であり、現状です。

そこで、能美市の10年後に向けて魅力を発掘、発信していこうということで、今いろんなことをやっているということを紹介したいなと思います。

合計特殊出生率という数字があり、これは女性が生涯何人お子さんをお産みになるかという数字ですけれども、日本の平均が1.45です。子供を産むというのは、男性と女性がいて子供を産むということになります。これが2以上でないと自然増にはなりません。能美市の平均は1.73です。この合計特殊出生率をどうやって上げていくかということは一つの政策になります。

その一方で、移住・定住を促進させる。つまり、国造地区にお住まいの方にはずっと国造に住んでもらう。それから、市外から国造地区に移り住んでもらうということを進めていきたいと思います。この魅力を発信していきます。

それから、住んでいただいても働く場所がないとなかなかこの場所に移住・定住してもらえないので、企業誘致を進める、地場産業を振興させる、そのために魅力を発信していこうということです。

それから、ふるさと愛の醸成ということで、例えば辰口中学校、県内の高校を出て、その後首都圏の大学に進学をした。そのまんま首都圏の企業に就職をしようか迷っている子供たちに、そんなこと言わないで、また国造に戻ってきて一緒に住んで、石川県内の企業で働いてみないかということをしていきたいと思います。

そのために、例えば和気小学校や辰口中学校に通っている時代から、この能美市の魅力

を子供たちにしっかりと伝えていく。自然景観が素晴らしい、おいしい水がある、そういうことだけではなくて、例えば高校生まで医療費が無料である、北陸エリアというのは電気代が日本一安い、世界に通用するような会社がいっぱいあるなど、そんなことを小学生、中学生のうちから伝えていって、国造地区というところはいいところだなということを伝えていきたいということをふるさと愛の醸成と言っていますが、そんな魅力を発掘・発信していきたいと思っています。

能美市の魅力は何だろうということで、ここにポスターがあります。能美市というのは、住みよさランキングでは4年連続全国上位なのですが、例えば魅力度や認知度は全国で400番台だったり、600番台だったりします。我々は「のみし」と読めますけれども、東京の人にこの漢字を出すと、ほとんどの方に「のうみし」と読まれてしまって、それだけやっばり知名度がまだまだ低いということで、上げるためにこんなポスターつくりました。

藤田誠さんといまして、能美市大成町ご出身のアサヒビールのコマーシャルをつくった有名な方です。その人と梅佳代さんといまして石川県能登町出身の、こういう人物像を撮らせたなら今もう5本の指に入るといぐらいの有名なカメラマンの方、お二人に能美市の魅力を発信するポスターつくってくださいということをお願いしたら、能美市の魅力というのは子供たちの笑顔だろう、子育て環境が素晴らしいということを象徴するのも子供たちの笑顔だろうということで、辰口中央小学校に行って写真を撮ってもらって、ポスターにしました。また、ビデオもつくりました。

ポスターは、東京駅、京都駅、大阪駅、金沢駅にも張ったり、それから高速道路のサービスエリアに張らせていただいたりしまして、ここにQRコードがついており、携帯電話でかざすと能美市のホームページに飛ぶようになっています。

今、このポスターのおかげで能美市のホームページを見る方がぐんと増えています。それからビデオは能美チャンネルで1時間に1回流しており、大変好評です。このように能美市の知名度を今少しづつ上げているということをやっています。

先日、辰口中央小学校へビデオやポスターに出ている子供たちに会いにいきました。とっても明るくて、みんな「こんにちは」と言ってくれました。みんなに「ポスターに出たり、ビデオに出たりして何か人生変わった？」と聞いたら、「何も変わらん」と言っていました。「でも、絶対にいいことあるよ」とも言ってきました。本当に明るい子供たちで、子供たちのこの笑顔のために頑張らなければならないなと思いました。

その能美市の魅力というのを県内外に発信をしていくということですが、今私が考えて

いる能美市の魅力について、例えば子育て環境が素晴らしい。それから、福祉や医療の政策が充実している。それから、ご当地もですが自然景観が素晴らしい。

自然災害が少ない。今月に入り土砂災害警戒情報が3回出ましたが、今のところ大きな災害に至っていない。それから、大きな地震も10年前の能登沖地震以来、震度4以上の地震は観測をされていない。それから、台風がこの石川県に押し寄せようとしても、いつの間にか白山が守ってくれているのか、今のところ大きな被害が出ていないということです。

それから、コンパクトで町会・町内会の組織がしっかりしている。能美市というのは84平方キロメートルありまして、その中に74の町会・町内会の組織があります。この町会長・町内会長さんの存在のおかげで、本当に我々行政も助かっているなどと思います。いろんなことを我々もお願いしていますが、きちんと応えていただいているということで、本当に感謝を申し上げているところです。

それから、文化、各種団体の活動が大変盛んです。辰口福祉会館や公民館等々も、何かやりたいということで予約を入れようと思ってもなかなかいっぱいだとれない。それだけコミュニティがしっかりしている、まちづくりに対する関心が高いということがあると思います。

それから、ものづくりのまちだということで、数々の一部上場企業の工場があるというのは本当に大きな魅力です。

それから、交通アクセスは加賀産業道路、南北に走る国道8号、海沿いには木曾街道というのがあって、それから今もう1本手取川に橋ができます。これ、タントの前の道が今福島で丁字路になっていますが、橋ができて、将来的には小松製作所の栗津工場から金沢港までつながる新しい道ができ上がります。

東西には能美東西連絡道路があります。来年3月には、根上の吉原釜屋に能美根上スマートインターチェンジができます。

それから、空港までは20分ぐらいで行けるとと思います。それから、金沢港までは35分ぐらい。金沢駅まで30分で行けば、そこから新幹線に乗れるということで、案外、交通アクセスが整っています。

これは住民の利便性がよくなるだけではなく、例えば観光誘客をする上でも、この交通アクセスがいいというのは役に立ちますし、それからものづくりをしている会社にとって物流の利便性が高いという魅力があります。

それから、ゆず、お米、木材があります。お酒、九谷焼、丸いもなどもあり、特産品が

たくさんあります。

それから、観光資源ということで里山は大きな観光資源だと思っていますし、動物園、フィッシュランド、九谷陶芸村といった観光資源があります。

大学があるというのは能美市にとっては大きなプラスです。それから、寺井高校があるということで、寺井高校はきょう、夏の甲子園を目指す大会で津幡高校にさよなら勝ちをして、あさって準決勝ということです。

それから、各種ランキングが上位ということで、住みよさランキングだけではなく、健康づくりに関するランキングでは全国で30位、石川県でナンバーワンという称号もいただいたりもしています。

いいことばかりではないというお話です。福祉費の比率が高くなってきているということで、その財源をどうやって確保していくかという問題があります。

それから、アセットマネジメントといいまして、これは老朽化した公共施設をどうメンテナンスというか、直していくかということです。能美市内には上水道管が約430キロ走ってしまっていて、それを順次、直していかなければなりません。橋、道路も直していかなければなりません。

それから、高齢者の足の確保ということで、今回のタウンミーティングで一番たくさん質問をいただいているのが、この公共交通をどうするかということです。きょうもご質問いただいています。

それから、広域連携の強化ということで、能美市というのは人口が減ってくる。行政サービスを維持していくため、近隣の小松市や川北町や白山市との広域連携を強化して補っていくということもしていかなければならないと思います。

その能美市の魅力を発信していくということを、格好よくいけばシティプロモーションという言い方をしています。

そのシティプロモーションということで、具体的に魅力の発信をいろんな形でやっています。辰口庁舎の1階に市民ホールがありましたが、今まであまり活用されてなかった。ここに能美市の特産品、工場でつくっている製品を置いたり、そして生け花展とか、書道展を開催したりして、能美市民の方にたくさん来ていただき、県外のお客様にも、能美市の魅力を発信していきたいと思っています。

それから、もう一つだけシティプロモーションの話をする、「広報能美」、これを今少し変えました。74町会・町内会の町会長さんに登場してもらって、自分の町の魅力を発

信、紹介をしてもらおうというコーナーが5月号から始まりました。

ただ、誌面の都合上、1回に3つの町会しか出られません。アイウエオ順でしているので、どうしてもヨ、ワは、ちょっと時間がかかりますけれども、必ずその順番は来ますので、そのときにはご自分の町のことをしっかりとPRをしていただければなと思っています。

以上で私からのお話は終わります。それでは早速、タウンミーティングを始めさせていただきます。

【司会】

それでは、“井出市長と語ろう「10年後の未来」”をテーマに皆様方からご提案、ご意見を頂戴してまいりたいと思います。

① 農林業の振興、適正な土地利用について

【司会】

最初のテーマ、農林業の振興、適正な土地利用について、ご提案、ご意見がある方は手をお挙げください。

【寺島町民】

「10年後の未来」ということで、私は、今自分が住んでいるこの里山、周りが山ばかりですが、そこについて考えてみました。

その山林の一所有者としての意見もあるのですが、まず未来を語る前に、過去から言うと、昔は山があれば、まきもとれたし、炭もつくったし、まして材木は家を建てる材料でもありました。そこにいて山林を所有していれば生活できたという時代が主に戦前から戦後間もないころだと思います。石炭や石油等が出てきて木材の外材がふえてくると、それを持っているとそれだけではとても生活できないということで、だんだん生活の場としての山林から離れていって、現状では山に入ってどうのこうのすることがなくなってきているように思います。

そうはいっても、相続したものは守っていかなければならないということもありますが、税金は取られます。でも、そこからは収入は何もないということで、どうしたらいいかなと現状私は思っています。

国や行政サイドは、山はやっぱり大事なので、水の確保や、空気の酸素のために維持管理はしてくれと言います。今度将来を担っていく子供たちにそんな話をしても、俺は要ら

ない、そんな山を持っていても何も金は入ってこないと言われました。それに対して親としても理解はできます。そういうものに対して、これは市というよりも、国や山林所有者が一緒になって考えていかなければいけないことかもしれないですが、将来を担う子供たちが喜んで里山に継続して生きていける、生活していけるためにはどうしたらいいのかということをごどのようにお考えですか。

【井出市長】

本当に大変重要であり、大きな課題であると思います。私も県会議員時代も含めて、この県産材を何とか有効活用できないかということで、いろんな提案をしました。その前にちょっと現状を、皆さんもおわかりになっていらっしゃると思いますけれども、お話しさせていただきます。

昭和39年に木材の輸入の自由化が図られて、それによって国産材の価格が大幅に下落していきました。1980年ごろは1立米当たり2万2,700円ぐらいしていたものが、2013年には驚くなかれ、2,465円です。10分の1ぐらいになってしまったということが現状でして、そんな中で、その県産材をどうやって使っていくかということが最も大切なのではないかなと思います。

能美市としても、その県産材を使ってもらえるように、例えば能美市内で家を建てた方に少し支援をしたり、木材チップに加工する事業に対して、支援、補助をしたりしています。あとはこちらの金剛寺、館の森林がSGECといいまして、ご存じだと思いますけれども、オリンピックで使ってもらえるという指定の木材にもなっています。使ってもらえるようお願いをしています。また今の能美市の児童館や保育園にはできるだけ木材を使うような設計をするよう促しています。

それから、これは県の話ですが、県で新しく建てる建物のどこかに、できるだけ県産材を使ってもらおうといったことを我々としてもお願いをしていきたいと思っています。それから集成材、CLTといいまして、木を接着剤でくっつけることによってその強度が増したのがあります。そうすると、今までは平家や2階建てぐらいしかできなかったものが、高層建築が建てられるような、そんな木材も新しく出ています。そんなものを使った建物を建ててもらおうことを促すことで、木材の需要を高め、そして何とかこの辺の森林の活性化につなげていきたいなど、私のレベルではそのぐらいしか今のところはお伝えできない状況です。

【市民】

市長が言われたことは、今のところはいいいけど、50年、100年になったら、その後、誰が木を植えていくのか。洪水や土砂崩などの防御のために誰が木を植えて50年、60年の木にしていくのか、そこがちょっと明確に規則正しくやっていかないと、後の者はかわいそうだと思います。

【井出市長】

これは国と県の政策として、木を切ったところにはしっかりと植林をしていくということとは決まっているので、丸坊主になるということはありません。

【和気町町会長】

私は昨年から町会長の役職につきました。柚子団地は正直言って場所がどこにあるかも知りませんでした。もう60年近く生きていますが、市役所の地域振興課が去年の8月に開催した先端大学と和気のゆずのことに關しての会で柚子団地というのを初めて知りました。

昭和60年ぐらいに旧辰口町が造成ということで柚子団地をつくりました。そのときはたくさんの方が参加されて、ゆずが2,000本ぐらい植えられた。約30年たった今は植えたゆずの木が1,000本になっています。ゆずをつくっている生産者は80歳ぐらいの年代の方が6名ほどになっています。

ことし、農政課の方たちと会合が何回かあり、市役所が少しソフト面でバックアップしようという話を聞いています。ただ、ソフト面で幾らバックアップされたとしても、生産者の方が高齢化であるのでどれぐらい続くのか、そういう話になります。

今、特産品としてゆずというお話も出ましたけど、そのゆずの木の半分は荒廃して枯れています。ソフト面ではなく、ハード、現地にてこ入れをしないと、そのゆずが特産品としてなっていないのではないかと思います。

だから、とりあえずは生産者について、どういうふうにとくさんの人が集まるのか、その方法です。ソフト面は、新聞紙上で和気小学校の生徒が柚子団地の場所を見に行く、事業に参加するなどという話もありました。

また星稜大学、金沢学院大学、金城大学の生徒が、和気に来てゆずのほうを・・・新聞紙上に出ていましたが、つくる人がなければ破壊されるような気がするので、その辺をどうされるか、ちょっとお聞きしたいなと思います。

【井出市長】

大変難しい問題です。まず、そう申し上げます。そう簡単にやれる問題ではないと私も思っています。ただ、これは何とか守っていかなくてはならないという気持ちもあります。

販売と製造、2つあるのだらうなと思います。こちらの販売ということになると、ゆうゆう倶楽部さんというところがあって、新しい商品を開発されたりPRをされていたりしています。

それから、今我々のほうで石川県の特別栽培農作物の認証の申請をしまして、それが認証されれば、またこの販売面では少し後押しができるのではないかなと思っています。

それから製造について、今一番ご心配のほうですね。今年度、国造地区パワーアップ支援事業を行います。これは国の制度を活用して、山村地域をバックアップしていこうという制度です。

具体的に言いますと、これ結構時間かかるのですが、現状を調査し、そして地域の皆様と一緒にここを盛り上げていけないかということをやっていこうということです。

そんな中で、例えば今おっしゃった生産者6名の方のうち、次の世代を育てられない方や、だんだん傷んでくる2,000本の原木をどうしていけばいいのかということ専門家の方に入っていて相談をしながら進めていこうとしています。地域の皆さんと一緒にやっていきましょうという、そんな事業です。

ですから、ぜひ和気の町会長さんもその中に参画していただいて、ぜひこの町のゆずと一緒に盛り上げていこうと支援をしていただきたいと思ひますし、我々市の行政のほうも全面的にサポートをさせていただきたい、そんな思いであります。

【和気町町会長】

わかりました。サポートしていただけるということで、ありがとうございます。

【司会】

では、ほかに農林業のことについて、ご意見ある方はいらっしゃいますでしょうか。

【鍋谷町民】

まず、能美市の土地の総面積が84.1平方キロメートル。その中で、林業面積が約35.64平方キロメートルということです。約42%が山林であります。

市長も先ほど言われましたが、災害の少ない土地であると言われるのは、森林が支えているのと、霊峰白山のおかげではないかと察します。

鍋谷町地区におきましては約8割が林野であり、過去には林業専業の家庭もあったと聞

いています。しかしながら、林業での生計ができず、安定のある会社勤務や農業等の兼業となった経緯があります。価値のある木にするには約80年の年月がかかると言われております。生産性が非常に悪いのが実情です。

過去に先輩方が、林業作業の機械化や立木単価を1円でも高くするために、林道に重機や自動車の乗り入れができるように林業整備をし、現在に至っています。

地区としまして、林道保全に毎年、河川愛護の草刈りの後に林道の草刈り作業を実施し、保全に努めているところです。

問題になるのが、自然の破壊力、これは林道の横に流れる川のはんらんであり、決壊です。毎年、工事の必要性があると考察します。

鍋谷地区は、自然の残る地区であります。ぜひ地区の道しるべの標識を掲示していただきますようお願いいたします。

それから、最後の質問ですが、市の木や市の花の制定の考えはあるかどうかということです。ちなみに、近隣の白山市は、木がブナ、花がアサガオ、鳥がウグイス。小松市は、木が松で、花が梅です。

【井出市長】

3つのことについて、まず、木材の利用促進ということに関しては、先ほど質問されたことと同じ答えでありまして、何とか県産材の利用促進に向けて、我々市としても取り組んでいきたいと思っております。

それから林道のことに関して、これも本当に重要な問題でもありますし、大変難しい問題でもあります。我々としても、林道の整備に当たっては、年間で相当の金額を使っているものの、実際には十分に至っていないというお話だと思います。

林道もいろんな箇所があり、ちょっと話も長くなってしまうので、改めて、うちの担当課のほうで直接お話を伺いして、そしてお答えする機会を設けたいと思います。

それから、市の花、木どうするのかという話ですね。ご存じだと思いますけど、旧辰口町というのはアカマツとノハナショウブというのが木と花。旧根上がクロマツとハマナス。それから、旧寺井がシイノキとツツジです。

やっぱり市の木とか花とかになりますと、どこに行ってもそれが生えていたり、見えていたりしないとなかなか市の木、花にはならないのかなと思っています。辰口に行けばノハナショウブが見えますが、根上に行くともハマナスがいっぱい咲いているということになると、これ、どっちにするのかなというのがあり、今のところどうしていいかわからない

というのが正直なところでは。

ただ、県内の市町を見ていましたら、ほとんどのところがやっぱり花とか木を指定しています。ただ、大体その木か花は、市や、町に行けば大体見えているらしいです。

金沢が花を5つぐらい持っており、それが市民奨励花ということにしてあるらしいです。だから、場合によっては、能美市は木3つ、花3つというようなこともありかなとは思っています。それはまた皆さんからご意見を聞いて、市の花、市の木を指定することで、どんなメリットがあるのかということもはっきりさせながら考えていきたいなと思っています。

② U I ターンの推進

【司会】

次のテーマは、U I ターンの推進です。何かご意見ある方お願いします。

【仏大寺町民】

うちの町会の最大の課題というのは、新しい住民です。I ターン、U ターンの方を受け入れて消滅を回避することです。まさに町のほうの縮図の極端な例です。

そのために、この間、我々は名水の管理や、ほっこりまつりについて、うちの町のよさを積極的に発信して頑張ってきているわけです。

しかし、さすがに高齢化が進み、それぞれの行事やいろんな施策をやるときに、人的パワーがもう足りなくなってきました。

今、高齢化率は四十数%ですが、10年後という話になりますと恐らく80%。今の若い人、学生さんは外に出るだろうし、我々の年代は確実に後期高齢者ですので、80%です。となると、何をやるにしても人的なパワーが不足します。

本来、その町の自助・自立で行事をやるとというのが本来のあり方かもしれませんが、さすがに我々の町ぐらいになりますと、人のところまで支援をしないといけないです。自助・自立はさることながら、それぞれの町会に合った細かい支援、まちおこしの支援というものをよろしくお願ひしたいです。

【井出市長】

ほっこりまつりということも含めてですね。

【仏大寺町民】

はい。例えば、ほっこりまつりについて話しますと、スタートしたとき、10年前は事業

主体に、能美市、里山ファン倶楽部、それと仏大寺町ということで、3者でスタートしたのですが、やがて市が消えました。里山ファン倶楽部が手を引いて、仏大寺町だけが残りました。もちろん、協力はしてくれていますが。

でも、今こそ突き放すのではなく、人手が欲しいというところまで一回りして、そんな状況になっていますので、人的な支援をよろしくお願いします。

【井出市長】

まず、町に沿ったまちづくりをどうしていくかというご質問だったのではないかなと思います。

実は、ほかの町内からも同じようなご質問をいただいており、どうしていこうかなという思いです。そこはやっぱりそうなりますと、その町の方に直接お話をお伺いして、そして事情をしっかりと我々も把握して、そして一緒になって考えてサポートをさせていただきたいなと思っています

今、能美市にはまちづくり出前講座というのがありまして、その中のメニューの一つに「これから10年のまちづくり」というテーマの講座があります。そういった場を活用していただいて、それで我々行政も一緒になって、その町の課題や悩みなどを、直接お伺いをし、どんなことができるかということを親身になって、その町をさらに活性化させるということに取り組んでいきたいなと思っています。

実は、こうやってタウンミーティングを重ねていますと、いろんな方から、うちの町はもう高齢化で何ともならない、もうどうにかしてくれと言われる町があります。すみません、私はいつも「皆さん、能美市には仏大寺町というすばらしい町があります。仏大寺町さんは、軒数は少ないけれども、町民で何とかしようと思って、家の門柱を皆さんでそろえて、そして年に1回、協力し合って、ほっこりまつりを開催し、市外から1,500人を超えるお客さんに来ていただいています。そんな効果もあって、今度、イタリアンレストランもできます」と宣伝をしています。実はこの間、谷本知事にお会いしたときにも、そんな話をしたぐらい、私は仏大寺町さんというのはモデルケースのような町だと思っています、これからも宣伝をさせていただきたいなと思います。

その一方で、ほっこりまつりで大変ご苦労されているということも聞いています。ことしも10月15日の日に開催していただけると聞いています。それが終わったころぐらいに、私も含めて一度お邪魔して、来年のほっこりまつり、再来年のほっこりまつりをどうするのか、私が地域のモデルケースといろんなところで話をしている仏大寺町をどうしていく

のかというお話をさせていただければなと思っています。

【仏大寺町民】

よろしく申し上げます。

③ 公共交通の充実について

【司会】

次のテーマは、公共交通の充実についてです。

【和光台住民】

この国造地区というところは、小松、金沢にも車で、30分ぐらいで行けるところにあります。和光台の小学生は130名ほどいますが、増加傾向にあり、今後もふえると考えられます。

今後10年後というところで、高校へ通う子も間違いなく増加します。しかし、交通手段としては、和光台には北鉄バスが来ますが、非常に本数が少なく、通学には使用できないということで、今、緑が丘、泉台のバス停に家族が送っているという状況です。のみバスもあるのですが、時間帯が合わず使用できない状況です。和光台からも金沢へ通っている学生がいます。能美市として公共交通の充実とありますが、考えを聞かせてください。

【井出市長】

公共交通をどうするのかというお話の中で、いわゆる交通弱者がいらっしゃいます。2つに分ければ、学生と高齢者ということになるのだと思います。そのうちの今は学生というターゲットに対するご質問だと思います。

和光台には今高校に通う方が53名いらっしゃいます。小中学生で約210名います。その方々も将来的には県内の高校に通っていただけるということになると思います。

それで、我々も何とか通っていただくということで、一応のみバスは能美根上駅に行きます。ご存じだと思いますが6時23分に和光台出て、7時6分に能美根上駅に着いて、電車に乗って、駅近郊の高校に通ってもらえるようにはしてはありますが、恐らく利便性が悪いということでしょう。

一応行きだけでなく帰りも、行きは1本ですけど、帰りは夕方に4本あり、できるだけバスを利用してもらいたいなという思いだけはあるということです。

それから、民間のバスをもっと走らせればいいということですが、これはやっぱりどうしても利用者数がある一定の数字を満たないとなかなか出してもらえないということにな

ります。我々として、今、少しでも皆さんのお役に立てないかなということで、冬場に通学バスを利用する方に対して上限で1万円支援していたのですが、今年度から倍にさせていただいて、2万円になりました。それで何とか通っていただけないかなという思いです。

ですから、個別にここの高校、ここの高校ということになりますと、やっぱりどうしても利用者数がある一定を満たないと皆さんに満足していただけるような公共交通の体系にはなりません。ただ、そんな中で個別に利用される方のお力に少しでもなれないかなということで倍増しました。

それから、地元の寺井高校に通う方に、3カ月8,000円のみバスのフリーパス券がありましたが、それを今度5,000円にして、それで地元の高校になるべく行ってもらえないかなと思います。

このパス券のデザインもちょっと格好よくして、使ってもらおうという計画をしています。もう間もなく発表できるかなと思っていますが、地元の寺井高校の美術部の皆さんにデザインを考えてもらって、パス券を作成し、使ってもらおうということも考えています。ぜひそんなことで当分の間はご勘弁いただけないかなと思っています。

【和光台住民】

私もバスについて、先端大から出ているバスで空港行きや小松行きが走っています。自分は勤務地が小松なのですが、よく見ます。あんまり人が乗っていません。時間帯によると思いますが、それを有効に利用できないか、一緒に乗らせていただけないかなという提案です。

【井出市長】

そうですね、それは今乗ることができない状況です。鶴来駅に行くバスは乗ることができますが、それは一度、JAISTさんに問い合わせてみます。

【金剛寺町民】

のみバスのことに関してですが、私は車に乗っているから乗ったことはありません。ぐるぐると回っていて、広範囲のお客さんをやっぱり乗せないといけないのでそうなるのだと思います。それとは別に能美市市役所、野々市市役所など、市役所間のバスを走らせることはできないのかなと考えたことがあります。

野々市市役所の周りでしたら、公共交通機関も発達しており、そこまで何とか能美市役

所から行けたら、金沢にもアクセスできます。金沢市役所にも直接のバス、白山市役所にも直接のバスという感じで、市役所間のバスというのを走らせるようになれば、時間も短縮になって利用者も出てくるのではないかなという思いがありますが、どうでしょうか。

【井出市長】

一度どれくらいそういった方がいるか、希望者、乗車される方がいるかということ进行调查してみないとなかなかそうはならないのかなと、また、市のエリアを超えた運行となると、我々能美市だけではできないということになります。そうすると、どうしても民間のバス会社に話をしていかないとできないということもあります。

【金剛寺町民】

そのバスが直接ほかのところへ行くということはできないのですか。

【井出市長】

いや、全くできないということだけでなく、どれだけ需要があるかということです。一度調査をしてみないと、どれくらいご希望する方がいらっしゃるのか。たくさんいらっしゃれば、そんなことも考えていきたいなと思います。

【金剛寺町民】

そこを起点にして、いろいろつながりができないかなと思っています。

【坪野町民】

うちの集落は行きどまりで、のみバスが一旦そこで時間調整でとまっています。そういうことをするのなら、通過して、先端大へつなぐという、そういう考えはできないかなと思いました。そのまま宮竹のほうへ回って、市役所のへ向かうという路線も考えられんかなと思います。

それと、うちはもう80歳過ぎで車の運転をする人がたくさんいますが、そんな人がいつまでも車を運転できないので、なるべくならそういう人たちの足を何とかして確保できないかなと思います。

【井出市長】

公共交通のテーマということで、全体的なお話をさせていただきたいと思います。冒頭申し上げたように、こののみバスに関しては、本当に多くの皆様からご意見を頂戴します。

まず、このルートとダイヤですが、実は多くの市民の皆様アンケート調査をして、それでご要望に応じて決めています。また、実際に市の職員がそのバスに乗って、乗ってい

る人からヒアリングもして、修正を重ねながら今の状態になっています。

それで、今、通過して、先端大にというお話もありました。これも皆さんいろんな方からどんな希望か、どういうルートで行きたいのか、どこに行きたいのかということを知ったり、走っているバス6台をどううまく活用していかうかと考えたりで今のルートがあります。

先ほど市役所と市役所を直接結べばいいのではないかと、ぐるぐる回るのはどうかというご提案がありました。ところが、とある方からは、「停留場まで行くのが厄介なので、うちの前まで迎えに来てくれないか」と言われました。そのときは10人ぐらい私のところへ来られて、一人一人そんなことを言っていたので、「わかりました。では、皆さんのところに順々にお寄りします。でも、今まで目的地まで30分で行きましたけれども、1時間半かかります。それでもいいですか」と聞くと、「いや、それは困る」ということでした。

本当にどれだけ乗っていただけるかということでバスのルートとかダイヤが決まるということですが、利便性が悪いということが一番ですが、本当に乗っている人が少ないです。1車当たり、10人乗っていません。それが現状であり、何とかしないといけないということで、今おっしゃったとおり、高齢者の皆さんの足をどう確保していくかということです。

のみバスはのみバスとして走らせておいて、個別に対応できるような、そんな仕組みができないのかなということで、オンデマンドという言葉があるのですが、そんなことができないのかなということで今検討をし始めています。

ただ、これも実際にオンデマンドということになると、それなりの料金をいただかなくてははいけません。いろんなことをやっていく上での財源が乏しくなってしまうので、利用される方にそれなりの金額を負担していただかなくてはならないと思ったときに、その金額が幾らだったら利用してもらえるのかという課題があります。今からいろんな皆さんからご意見をいただきながら、実際に運用してみて、実験を重ねながら、この公共交通の問題に取り組んでいきたいなと思っています。

それと、のみバスが、こんなダイヤで運行しているのか、どんなルートを通っているのかということを知らない方が案外多いのではないかと話も聞いています。それから時刻表には能美市一円のバスがどう通っているかということが書いてありますが、やっぱり高齢者の人には見づらいのではないかと話があり、今、マイ時刻表というのをつくってもらおうということで、相談会みたいなことをしたいなと思っています。

「私は寺島から福祉会館へ行きたい」と言われたら、何時発で何時に着くバスがありま

す。帰りは何時発のバスに乗ったら戻れるというようなマイ時刻表をつくってもらえるようなものにしたいと思っています。

④ 高齢者福祉充実について

【司会】

次は、高齢者福祉の充実について、ご意見ある方お願いいたします。

【金剛寺町民】

高齢者福祉というよりも、冬の除雪についてです。この地区は、根上あたりから見ると雪の量がとても違います。市長さんはわたしといっしょに金剛寺町を歩いたからよくご存じとかと思います。

朝3時、4時、早いときは2時から出て除雪しています。そうすると、金剛寺のほうはささきっとして、学校の前やCC館の前はとても丁寧にしています。我々の細い露地などは後回しになって、7時、8時に来ないときもあります。そうすると、中学生や老人、会社へ行かれる人は結構早く出なくてははいけません。普通の時間より10分~20分ほど早く家を出なければなりません。市のほうはそれに対してぜひとも、何か援助してほしいなと思います。ひとつそれについてどうですか。

【井出市長】

一緒に歩かせていただいたあの日が思い浮かびます。しんと降ってくる日でした。除雪に関して、危ない道があるので何とかしてほしいと言われましたが、どうしても幹線道路が優先になってしまいます。在所の中の道が後回しになってしまうということはなんとかご理解をいただけないかと思います。

市のほうでどんな制度があるかというのと、全体の話からすると、屋根の雪下ろしには、1年間に4万円ぐらい市のほうから助成をしています。あと、除雪機を購入すると、100万円を限度で2分の1を補助する制度もあるので、何とかやってもらえないかなと思います。

それから、金剛寺さんは、これは既に地域福祉委員会のほうでお助け隊をしていただいているので大変ありがたいなと思っています。（除雪車は）できるだけ早く行きますが、何とか皆さんで協力し合っしてのいでもらえないかなというお願いです。

【金剛寺町民】

だから、業者が忙しいので市のほうから援助隊というか、協力できるような体制をしてほしいなと思います。もう一人除雪する人がおれば負担少なくなると思うので、そうする

とうちのほうも早くできると思います。

【井出市長】

金剛寺は雪が深いこともわかっていますし、町会長さんのおっしゃることもわかるのですが、どうしても市の全体のバランスを考えながら優先するところはまずやってということになるので、できるだけ早く行くようには今からも考えていきますし、努めていきますので、何とぞご寛容ください。

⑤ 子育て支援の充実について

【司会】

子育て支援の充実について、ご意見ある方、挙手お願いします。

【和光台住民】

和光台のほうにはかるがもの輪という子育て支援サークルがありまして、妊婦さんと、あと未就園児をお持ちのお母さんたちが参加するサークルです。主に子育てについての悩みごととか、ちょっと息抜きの間ということで活動しております。

町会からも活動支援として活動費を支援していますが、参加人数が実は減ってきており、なかなか新しい人が入ってきません。

高齢者対象のいきいきサロンなど、そういうのにも支援は、市のほうからいろいろあるのですが、若いお母さんたちのサークルへの支援というというのは何かないものかということですが。

多分、町会としても、参加人数が減っていることに対して、てこ入れしていかなければならないと思います。少し市のほうでご援助いただけるようなことがありましたらつくってほしいです。もし、あるとすれば、それを町会のほうに何かフィードバックできるような情報を提供してもらうことはできないかなと思いますので、ご検討をよろしく申し上げます。

【井出市長】

私もかるがもの輪というサークルがあるというのを教えていただいて初めて知りまして、ちょっと調べさせていただきました。いろいろ地域の皆様のご要望にお応えをして活動されてきたということを知りました。

ただ、お世話の代表されていた方がおやめになられて、なかなか継続が難しくなってい

るというお話を聞きまして、何とかご苦勞されていることをサポートできないかなという
ことで、市の職員とも話をしていました。

先ほどいきいきサロンというものと同じようなという話がありましたけれども、高齢者
の方はいろんなところに出ていくのが大変難しく、一番近い公民館を利用されていると
ころに対してサポートしましょうということで高齢者向けの政策があるわけです。

一方、子育て世代の方ということになると、車でいろんなところに行かれたり、昼間は
働いていたり、個別にいろんな用事があつたりします。例えば児童館だとか、子育て支援
センターに来ていただいて、そこでほかの地域の皆さんと、それから同じような課題を持
っていらっしゃるお母さん方やお父さん方と触れ合い、それで子育てに前向きになってい
っていただくという、政策を今まで我々もやってきました。

ですから、そういった地域オリジナルでやっていらっしゃるというのは、ちょっと私も
ほかの地域ではあんまり聞いたことがないので、初めての事例であり、一回、市の職員が
お邪魔させていただいて、具体的にどんなことでお悩みで、どんなふうにしていけばいい
のかということをお個別に一度ご相談させていただければなと思っていますので、そのとき
にいろいろ教えてください。

⑤ スポーツの振興について。

【司会】

次のテーマは、スポーツの振興についてです。ご意見あります方、お願いします。

【金剛寺町民】

3町合併ということで、野球場が3つ、そして物見山の立派な陸上競技場、辰口丘陵公
園のテニス場、根上には立派なラグビー場があります。サッカー場がどこにあるかちょっ
とわからないですが、5万人規模の市に足るすばらしいスポーツ施設がたくさんあるとい
うことを利用して、それらを全部利用して、小学生の合宿や大学生、高校生の合宿で使っ
てもらう、そんなときに子供たち、多感な高校生、大人に一步近づいた大学生に能美市の
よさを知ってもらって、能美市がいいなと思ってもらったら、能美市に住みたいと思う
人が少しでも出てくるのではないかと思います。

【井出市長】

おっしゃるとおりで、能美市では、今、能美市観光デスティネーション合宿補助金とい
う制度があります。これ、能美市内で合宿したら、1泊500円プレゼントしますよというも

のです。結構人気であり、例えば平成27年度は31団体で4,650人の方に利用していただいています。延べで100泊、能美市内に泊まって合宿してくれています。平成28年度は4,100人、78泊ということです。おかげさまで今年度はもう4,000人に達しているというぐらいです。これは辰口温泉やさらに泊まって、能美市内のスポーツ施設を利用してもらっています。

また、能美市内の観光施設に2カ所行くと500円プラスされます。このように今ご指摘のような効果を少しでも上げたいなと思っています

ただ、もう一つ、加えていきたいなと思っているのは、この間も甲子園常連のある高校が能美市内で泊まって合宿していました。そこに例えば和気小学校の野球をしている子供たちが一緒になって教えてもらったり、練習を見たり、そんなことができないかなという思いを今持っています。せっかく来てくれている、合宿してくれている人と交流することができないかなと思っています。市民の競技力の向上という面でも、合宿に来ているスポーツをやっている大学生や高校生との交流を考えていきたいと思っています。

【市民】

十何年前ですけど、高校生のテニスの国体があったので、物見山に見に行き選手と話をしていたら、「こんな立派なところ初めて、施設がよく、整備も整っていて、きれい」、というお話を聞きましたので、もっと宣伝して、今言われたように合宿や練習、大会があったら誘致したらいいなと思います。

【井出市長】

その提案もごもっともで、あいている施設をもっと活用していきたいなという思いもありますが、その一方で、合宿をたくさん呼ぶと市民が使えないという、そんな声も一部、出ていまして、どのぐらいのころ合いがいいのかなという、新しい悩みを抱えているという現状です。

⑥ 市民目線による行政運営について

【司会】

次のテーマは、市民目線による行政運営についてです。

【金剛寺町民】

やはり市民目線と言うとみんなどう言うかわからないですが、老人の方たちは、「10年後の未来」というテーマでありますけど、今の問題をまず現状を把握してほしいというこ

とをみんな希望しています。100年後でなくて、現時点動いてほしいという意味でこの市民目線の行政運営ということをして老人会の会長さんが書いたわけです。だから、そのためにはほかの地区と老人会を通して交流したいという思いで書いたと思います。

そして、今、老人会の場合、会があると中央のほうで開催されます。行事をこの国造地区でやるとか、この行事は宮竹地区でやるとか、そういうように回って歩くような行事をしたらどうでしょうか。みんなで交流できればいいのではないかとということで、そういう運営をしてもらいたい。現時点の老人たちの現状や、どうしたら老人たちが明るく自分の余生を、楽しく生きるかということを目的に書いたことです。

うちでも一応いきいきサロンをしています。もっと充実していただきたいなと思います。

【井出市長】

そんなこともあるのだろうなと思います。ただ、辰口地区全体の老人会をどこでやるかということになると、ある程度の人数が入られる会場でないといけないと思いますし、例えば辰口地区であれば一番西は高座になるとと思いますが、高座の人が行きやすいところではないといけません。

例えば1回目は高座で、次は岩本で、その次は和佐谷ですということであれば、皆さんも納得されるでしょうが、辰口は37町会あるので、どうなのかなというのはあると思います。

ただ、市民目線に沿った、そんな市政という話になったとすれば、例えば金剛寺の老人会で、私にきてほしいということであれば、例えば祭りのときに行かせていただいて、テーブル囲んでいろんな話もさせていただきます。それからきょうのタウンミーティングはこの会館でしていますが、例えば国造地区の皆さんのご意見、皆さんの総意があれば、ぜひ金剛寺の公民館で次回はさせていただきたいなとも思いますので、何なりとおっしゃっていただければと思います。

⑦ その他

【司会】

その他、今までのテーマのほかに何かございましたら、挙手をお願いします。

【和気町民】

和気の釣り堀の池の前の坂道からおりて最初の交差点が危ないから信号機を早くつけて

ほしいです。少し前に大きな事故がありました。軽自動車同士の事故でした。信号機があったら事故が起きないと思うのでお願いしたいと思います。

【井出市長】

信号のご要望というのは大変多いです。そうなってくると、どうしても交通量や危険度を照らし合わせて決めるので順番になります。

【金剛寺町民】

今、そう言われていますが、たまたまこういう事故が、通学時間帯でなかったのよかったのです。小学生の登下校時に事故があったら、小学生が巻き添え食うことになります。そうしたら大変な事故になるわけです。交通量など、そういう問題ではないと思います。人間の命のとうとさというものを考えたら、やっぱり早く信号つけるべきだと思います。何回かみんな必要だと言っているのに、交通量となんだと言いますが、違うと思います。

【井出市長】

ちょっと言葉足らずだったのもう少し説明をしますと、まずはおっしゃるとおり、学校のそばで、それから通学路を守るということも優先順位が高いところの一つでもあります。そんな中で、信号機というのは、今、石川県の場合、年間に15基つくるとというのが一つの目安になっています。

そんな中で、県内19市町ある中で、どこを優先順位にするかというのを県警本部でいろいろ精査をして、それで設置場所が決まっています。

能美市としても大変危険な場所だということ、なるべくはやく信号をつけてほしいという事は寺井警察署を通して話をしているので、そこをぜひご理解をいただきたいと思います。

【市民】

今の件ですが、私もさっき通ってきました、信号はもちろんつけてもらえばいいと思いますが、あの道はどちらが優先なのかはつきりわかりません。「とまれ」の標識はあると思いますが、もう少しはつきりわかるような、例えば道路に線を入れるなど、一目でわかるような形にしたほうがいいと思います。

【井出市長】

そこは一回、寺井警察署のほうに話をしてみます。今回の事故の原因もしっかりともう一度聞き直してみて、その事故の原因を踏まえて、未然に防げるような政策がないか聞いておきます。

【金剛寺町民】

今の関連ですが、もう冬場まで待たないです。というのは、坂のところに横断歩道があって、ブレーキをかけてもとまらないという現象が多分起こると思いますので、早々に具体的な対策をお願いします。

もう一つは、私は防災士をしています。それで10年後の未来というものを考えてみました。10年後の未来というよりも現実から進めていくと、国造地区の山間地というのは高齢者がほとんどです。消火栓についてですが、地下式と地上式があります。多分、高齢者だったら地下式の消火栓は操作できないのではないかと思います。かなり重たく、何かてこを使って上げるような感じです。地上式への変更をお願いします。

市の担当課からは既存の技術は満たしている、現状のルールでは変更できない。その既存のルールはわかります。昼間はほとんど若い人は仕事へ行っているはずなので、そのときに初期消火をするのは、高齢者、女の人です。そのために、やっぱり地上式にしてもらわないと、使えないということがあると思います。

もう一つは、ホースサイズです。今のホースサイズは65です。水圧が高くて、多分、高齢者は持てません。支えきれずけがをされることもあると思います。

それで、ホースサイズを65から40に落とすということを具体的に、10年後ではなく、1年1年単位でタイムスケジュールがわかるように、5年後ぐらいまでに対策ができたらいかなと思っていますので、ご審議いただきたいと思います。

【井出市長】

以前、雪の日に回ったとき、確かに地面に消火栓があると、雪が邪魔して見えないというところもありました。それまた市に帰って見せていただいて、改めて回答します。

【和光台住民】

市長さんは何回も小学校に足を運んでいただいて、見ていただいているというのを聞いています。私も奉仕活動で小学校に行きますが、保育園側のすぐ横に小学校につけるコンクリート製の非常階段みたいなものがあるのですが、そこにひび入っていることはご存じでしょうか。大変危険なので、早急に見ていただきたいです。

あと、和光台は人口増加率、ほかの地区より高いことはわかっていらっしゃると思います。私は6年前に小松からこちらに移住してきて、当初はいいなと思いました。子供が生まれて、保育園、小学校に行くにつれて感じたのですが、ほかの地区より小学校も古いし、保育園も古いです。保育園では、数十年前に屋内プールが破損してけがをしたことがあり

ました。それを取り壊して、新しく屋外プールをつくるなど、お金をかけています。私には2年生の子供がいます。小学校は36人目から2クラスになります。それで、このあたりに家も建って、だんだん転校生が来て、2クラスにしないとイケません。そこで教室をつくるため数百万円改良費、修繕費がかかっていると思います。

何年も前から話は出ていますが、国造地区には全然反映されていません。建てかえをメインにして近い将来、計画にしっかり盛り込んでほしいと思います。この場で約束はできないと思いますが。保育園も小学校も学童、災害施設としても利用できる備蓄基地も備えた複合的な施設を一気に建ててほしいと思います。

あと、学童について、改修したから去年よりちょっとお金を上げますと言われました。みんな納得していません。大して別に改善、改修されてないと思います。でも費用がかかっているので、利用者に負担がきています。そのほかにも、小松と比べたら体育館もなく、子供がかわいそうです。

本当に子供のためにも学童なども充実させてあげたいと思います。医療費の無料などありますが、それはみんなわかっています。でも、学童は比較したらやっぱり、宮竹とかそっちとは別ですが、国造地区で考えたら低下します。これが現実だと思います。

市長さんもわかっていると思いますが、それを早い段階で建てかえを視野に考えてほしいと思います。お願いします。

【井出市長】

いろんなご不満があるのだと思います。財政的に豊かであれば、今おっしゃったところを全てやりたいと私も皆さんの前で申し上げたいなと思いますけれども、やはり財源、財政には限界があります。

そうしますと、例えば小学校は、能美市には8つあり、中学校が3つあります。その中で、どうしても古いところから順番に直していかなければならないということはぜひご理解いただきたいなと思います。

決して和気小学校や和気児童館をないがしろにしているわけではありません。そこは直さなければならぬところはきちっと今からも直していきます。多少時間かかるかもしれませんが、けがをされたということになるとそれは大変なことです、すぐに直します。

ただ、建てかえてほしいということになると、それは私の現状からいくとわかりましたと言えません。どうしても優先順位がありますし、それから皆さんの、能美市民全員のご要望を聞いた中でどうしていかなければならないかということがあるということをご

理解をいただきたいと思います。

ただ、いろんなご要望にはお応えをしていきたいなと思いますので、引き続きいろんなご意見、ご提言をいただければなというお願いもさせていただきます。

【和光台住民】

建てかえは、まだまだ後だと言いましたね。

【井出市長】

はい。今のところ大規模改修をしながら補完をしていくつもりでいます。ただ、大規模改修した小学校とか中学校を見ていただければいいと思いますが、結構きれいになっています。

【和光台住民】

和気小学校が何番目に来るかはご存じですか。

【井出市長】

何番目かというのもわかっています。いつ改修になるかというのはこの先です。今順番にやっています。

【市民】

今、財源のお話をされました。東北の方では、議員の報酬は日割りで計算されている様です。そうすると大分お金が違うのではないかと思います。今の市議会議員の先生方は裕福な商売をしているか、裕福な人ばかりです。本当に市民のため思うたら、出たときだけ報酬をもらったらいいのではないかと、そうすると財源が浮くのではないかと、個人ながら思いますけどどうでしょうか。

【井出市長】

今、能美市議会議員は18名の定員数で17名いらっしゃいます。私はどの方も立派に住民の皆さんの声を反映してやってらっしゃるだろうなと思っています。

逆に言えば、歳費という面でいくと、ほかの市町と比べると人口規模や予算規模でみても今の能美市議会の議員さんの歳費というのは若干低いです。その辺は私がとやかく言うことではなくて、議員さんのほうでその歳費は幾らが適切であるか、それから定員数が何名であるべきかということはずっと今までも議論も重ねてこられましたし、これからも重ねていかれると思っています。きょうもそこに代表的な議員さんもお越しですので、きょうお帰りのときに直接お話も聞いていただければなと思います。

【和気町民】

名鉄のあの後ろのあのあこに大きい木があります。子供が歩いており、台風や地震で倒れることもあると思うので、危ないので懇談会でお話ししたら、見に行くということでした。どうなったのか、大事なことなのでお話をちょっと聞きたいと思います。

【井出市長】

見てきました。2、3日後に行ってきました。教えていただいた木だろうなと思って、私が見た範囲ではまだ大丈夫かなとは思いました。ただ、さっきから、そう思っていないと言われているので、もう一回一緒にうちの職員と行っていただければなと思いますので、またご案内します。

【金剛寺町民】

山村振興計画委員会というものがこの地区にあります。第1回が先月の28日にありまして、2回目が8月3日にあります。大体、今出たテーマとこの振興会で話すテーマ、よく似たものです。国造地区の振興ですから、ゆずのことなど、それは副市長がこの間来て、私とも話をしていました。

この中のメンバーを見ますと、市役所さん、町会長さん、そしてあと柚子の団地長さん。そういう、どうか年寄りの人ばかりです。もっとこのメンバーを若い人、この地区の振興のためになると、やっぱり婦人会、青年団、壮年団といったこの地区の今から核になっていくような人をこのメンバーに入れて、そういう計画案をもっともっと練ったほうが私はいいのではないかなと思います。ちょっと昔の話になりますけど、辰口町のとき、町の職員と我々が20代か30代のとき、一緒になってこの辰口町をどうしようかと、どうするかという討議をしたこともありました。昔は。例えば今の福祉会館建てるときも、町長は各団体に、「こういう建物建てたいけれども、各団体の人はどうですか、意見を言ってください。」と聞いてくれました。当時、青年団をしており、意見を書きました。「そこを核にして、老人やみんなが集まってわいわいと楽しんでいけるような施設をつくってください。」と、町長さんはあのような立派なでかいものつくってくれたのです。

そういう経歴もありますから、やはり若い人の意見をどしどし入れて、この地区が活性化する計画委員会にしていただきたいという要望です。ひとつよろしく願います。

【井出市長】

はい。わかりました。

【和気町民】

税制についてちょっとお聞きしたいことがあります。和気町、和気校下ですが、和光台さんは市街化区域、それ以外のところは市街化調整区域ということで、本来であれば市街化調整区域というのは都市計画税がかからないはずですが、和気と寺島だけ都市計画税がかかるのはどうしてなのかなというのが一つです。いろいろと自分なりに調べてみると、特定用途制限地域というものが設定されていて、どうもその地域が寺島と和気かなと思います。同じ旧和気校下なのに、和気と寺島だけ0.3%ですけど都市計画税がかかって、館や金剛寺はかからないというのは何か、旧和気校下の町民としてはちょっとおかしいなと思います。

もう1つ、能美市が定住・移住も促進しているということで、定住なら助成金制度というのがあります。和気校下はプラス30万円助成されるようです。その範囲に和気と寺島も含めて旧和気校下が入っていました。その定住促進の助成金と税制が何かちょっと扱いが違うなと感じました。

これほかにもいろんな制度、いろいろあると思いますが、その辺の政策について10年後を見据えて、はっきりとした方向性とかを示していただきたいなと思います。

【井出市長】

まず、土地の区分でどこそこに網かけてあるかということになると、詳細を把握していないので、そのことに関しては改めてまたご報告させていただきます。

それから、定住促進の制度というのは、これは人口の減少幅が広いところに対して、そこに住んでもらえるように手厚くしています。ですから、和気地区とか寺島地区は将来的に人口の減少幅が大きいということを何とか底打ちできなければなということで、定住促進の支援策を手厚くしているということです。

さっきおっしゃった土地区分の税制制度とずれがあるよということですが、その税制のほうをちょっと今把握していないので、その関連性も含めて、改めて個別にご報告をさせていただきます。

【司会】

これで本日のタウンミーティングを閉じさせていただきます。最後に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

皆さんにとって十分なお答えができなかったとは思いますが、必ずやいただいた

意見を何らかの形で反映させていただいてお返しをしていきたいなと思っています。

そして、きょうはここに議員さんもいらっしゃって、議員さんもしっかり皆さんの声を聞かれていらっしゃるはずです。町会長さんもおられます。きょういろんな時間の都合で発言できなかった方もいらっしゃると思います。そんな方も、町会長さん、議員さんを通してまたおっしゃっていただければなと思います。

今、このタウンミーティングというのを町会・町内会というくくりの中で開催していますが、10月以降はテーマごとのタウンミーティングもさせていただきたいと思っています。

そこは、例えば農産物をどうするのかといったテーマでもあろうかと思ひますし、それから一回、金剛寺の公民館に来てほしいということがあろうかと思ひます。できるだけ皆さんのところにお邪魔したいなと思ひておりますので、またご案内をいただひてお招きをいただひければなと思ひます。本日は長時間ありがとうございました。